

多重疑問詞疑問文の特徴

—疑問詞の振る舞いが異なるいくつかの言語における多重疑問詞疑問文の観察—

村 田 明

キーワード：多重疑問詞疑問文、元位置疑問詞、優位性効果

要旨

本稿の目的は、いくつかの言語における多重疑問詞疑問文の振る舞いを、その違いに重点を置いてまとめることである。1節でいくつかの言語における疑問詞疑問文の振る舞いの違いをまとめてから、その後の節で、多重疑問詞疑問文の色々な振る舞いを、言語間の違いに注目しながら述べる。

1. 疑問詞疑問文

本節では疑問詞疑問文の振る舞いを調べる。

- (1) a. 太郎は花子が好きですか。
b. 太郎は誰が好きですか。

(1 a) は「はい」または「いいえ」で答えるはい—いいえ疑問文で、(1 b) が内容情報が答えとなる疑問詞疑問文である。疑問詞疑問文は「誰」「何」「いつ」「どこ」「なぜ」の5つの疑問詞を含む疑問文のことである。疑問詞が5つであるというのは英語においての5W1Hより1つ少ないが、これは、英語のhowが日本語では「どのように(して)」と訳されるように「どの」疑問詞と考えられるからである^{1,2}。

日本語の疑問詞は文中の位置が、疑問詞ではないが疑問詞に対応している表現と変わらない(これを疑問詞が元位置にあると言う)のに対し、英語の疑問詞は文頭にくる。

- (2) a. 太郎は花子に会いたかったのできのう公園へ行きました。
b. 太郎はなぜ公園へ行きましたか。
c. 太郎はいつ公園へ行きましたか。
d. 太郎はどこへ行きましたか。
- (3) a. John went to the park yesterday because he want to see Mary.
b. Why did John go to the park e?
c. When did John go to the park e?
d. Where did John go e?
e. How did John go to the park e?

日・英語における疑問詞の位置の違いは、疑問詞の元位置が従属節内であっても同様である。

- (4) a. [太郎がなぜ公園へ行ったと] 思いますか。
b. [太郎がいつ公園へ行ったと] 思いますか。
c. [太郎がどこへ行ったと] 思いますか。
- (5) a. Why do you think [that John went to the park e] ?
b. When do you think [that John went to the park e] ?
c. Where do you think [that John went e] ?
e. How do you think [that John went to the park e] ?

さらに、間接疑問文においても、日・英語の疑問詞の位置は直接疑問文の場合と同様に異なる。

- (6) a. 次郎は [太郎がなぜ公園へ行ったか] たずねた。
b. 次郎は [太郎がいつ公園へ行ったか] たずねた。
c. 次郎は [太郎がどこへ行ったか] たずねた。
- (7) a. Bill asked [why John went to the park e]
b. Bill asked [when John went to the park e]
c. Bill asked [where John went e]
e. Bill asked [how John went to the park e]

疑問詞の位置に関して、日本語は疑問詞が元位置にあるのに対して、英語は疑問詞が文頭（間接疑問文の場合は節頭）にある。言語によっては、疑問詞が文（節）頭にある場合もあれば、元位置にある場合もある⁴。

- (8) Tu as vendu quoi? Bošković (1997 pp. 9,10)
you have sold what
'What did you sell?'
- (9) a. *Jean et Marie croient que Pierre a embrassé qui?
John and Mary believe that Peter has kissed who
'Who do John and Mary believe that Peter has kissed?'
- b. Qui Jean et Marie croient-ils que Pierre a embrassé?
- (10) a. *Pierre a demandé tu as embrassé qui?
Peter has asked you have kissed who
'Peter asked who you kissed?'
- b. Pierre a demandé qui tu as embrassé?

フランス語では、元位置が主節にある疑問詞はそのままそこにあってもよく（8）、元位置が従属節内にある場合は直接疑問文（9）、間接疑問文（10）いずれの場合も文頭、節頭にそれぞれなければならない。

疑問詞とその元位置の関係から次の3種類の言語を観察した。

- (11) a. 疑問詞が元位置にある：日本語
 b. 疑問詞が文頭または節頭にある：英語
 c. 疑問詞が、元位置の環境によって元位置にあったり、文（節）頭にあったりする：フランス語

2. いくつかの言語における多重疑問詞疑問文

2. 1 英語

英語の多重疑問詞疑問文では疑問詞1つが文頭であって、他の疑問詞は元位置にある。

- (12) a. Who bought what?
 b. What did you buy where?
 c. Who left when?

ここで注意しなければいけないのは、(12 b, c) のように、元位置にある疑問詞が付加詞⁶の場合である。

- (13) a. What did you buy where? Kuno and Takami (1993 pp. 81-88)
 b. What did you buy when?
 c. Who died where?
 d. Who left when?
 e. *What did you do why?
 f. *What did you do how?
 g. *Who left why?
 h. *Who died how?

文頭にある疑問詞が主語疑問詞 (13 c, d, g, h)、補部⁶疑問詞 (13 a, b, e, f) のいずれであっても、元位置にある付加詞疑問詞がwhere、whenの場合は許容されるが、why、howの場合は許容されない。

間接疑問文が多重疑問詞疑問節である場合も、直接多重疑問詞疑問文の場合と同様、疑問詞1つが節頭にあり、他の疑問詞は元位置にある。

- (14) Mary asked who read what. Pesetsky (1984 p. 12)

さらに、付加詞疑問詞whyは、間接疑問文であっても疑問節内の元位置にあってはいけない。

- (15) *Tell me who came why. Kuno and Takami (1993 p. 120)

多重疑問詞疑問文が直接疑問文であり間接疑問文でもあって、さらに、間接疑問節内に元位置疑問詞がある場合、元位置疑問詞に関しては、直接・間接の2通りの解釈が可能である。

- (16) a. Who knows where we bought what? Pesetsky (1984 pp. 2-3)
 b. John knows where we bought what.
 c. John knows where we bought the book; Mary knows where we bought

the record; etc.

(16 a) の what の間接疑問解釈では、多重疑問詞疑問文に特徴的な対応答が間接疑問ということで、疑問文の答えとしては、(16 b) に示されているように比較的簡単なものになるであろうが、what の直接疑問解釈では who と what に対するいくつかの対応答が考えられる。

2. 2 日本語

日本語多重疑問詞疑問文は、疑問詞疑問文と同様すべての疑問詞が元位置にある。

- (17) a. 誰が何を買いましたか。
b. どこで何を買いましたか。
c. 誰がいつ辞めましたか。

間接疑問文における多重疑問詞も元位置にある。

- (18) 花子は誰が何を買ったか尋ねました。

付加詞疑問詞に関しては 3. 2 節で考察する。

日本語の埋め込み複文は文解析に負担の多い中央埋め込み構造を生ずるので、直接疑問文に間接疑問文を埋め込む場合、ポーズを置くなどの手段で⁶間接疑問節部分をわかりやすくする必要はある。

- (19) 誰が、太郎がどこで死んだか、尋ねましたか。
(20) 誰が、太郎がどこで何を買ったか、尋ねましたか。

そのために、間接疑問節内の元位置疑問詞は間接疑問の解釈しかできない。

2. 3 ブルガリア語 (B)、セルボクロアチア語 (SC)

これらの言語では、多重疑問詞疑問文のすべての疑問詞が文頭にある。

- (21) a. Koj kogo vidjal? (B) Boeckx and Grohmann (2003 pp. 2, 3)
who whom saw
'Who saw whom?'
b. Kogo kakvo e pital Ivan? (B)
who what is asked Ivan
'Who did Ivan asked what?'
- (22) a. Ko je koga vidio?? (SC)
who is whom seen
'Who saw whom?'
- b. Šta je kome Ivan dao? (SC)
what is whom Ivan given
'What did Ivan give to whom?'

複数の疑問詞が文頭にくるブルガリア語、セルボクロアチア語であるが、複文埋め込み

構造を構成する多重疑問詞疑問文では、従属節内に元位置のある疑問詞の振る舞いが両言語で異なる。

(23) a. Koj kŭde misliš [če e otišŭl _ _] ? (B) Rudin (1988 pp.450-454)

who where think-2s that has gone

'Who do you think (that) went where?'

b. *Koj misliš [če e otišŭl _ kŭde] ?

who think-2s that has gone where

(24) a. *Ko šta ŷelite [da vam kupi _ _] ? (SC)

who what want-2p to you buy

b. Ko ŷelite [da vam šta kupi _] ?

who want-2p to you what buy

'who do you want to buy you what?'

ブルガリア語では従属節内に元位置のある疑問詞も文頭になければならない (23) のに対し、セルボクロアチア語では複数の疑問詞が文頭に來れる (22) にもかかわらず、文頭 2 つ目の疑問詞は従属節内に元位置があってはいけない (24)。

3. 多重疑問詞の相対的位置

2 節では、多重疑問詞疑問文の疑問詞が文 (節) 頭にあるのか元位置にあるのかという観点からいくつかの言語の言語事実をまとめた。本節では多重疑問詞疑問文の複数疑問詞間の相対語順を調べる。この語順を説明する原理としては、Chomsky (1973) の優位性条件がまず考えられるので、この条件の観点からいくつかの言語の多重疑問詞疑問文に関する事実をまとめる。

3. 1 英語

英語多重疑問詞疑問文は文 (節) 頭に 1 つの疑問詞があり、他の疑問詞は元位置にある。そのいずれの疑問詞が文 (節) 頭、いずれが元位置にあっても良いわけではない。

(25) a. Who bought what?

b. *What did who buy?

(26) 優位性条件

a. いかなる規則も次の構造内の X と Y を関連付けることはできない。

... X ... [... Z ... WYV ...] ...

X を [...] 内の要素に関連付ける規則が、Z, Y のいずれかに適用する可能性があって、Z が Y より優位の位置にある。

b. A が属するすべての主要句に B も属していて、その逆が成立しない場合、A は B より優位の位置にあると言う。

主語が目的語より優位の位置にあるので、主語が元位置である疑問詞が文頭にある (25

a) は優位性条件を守っているが、目的語が元位置である疑問詞が文頭にある (25 b) は優位性条件違反である。主語は常に優位位置にあるので、多重疑問詞疑問文の疑問詞の1つが主語である場合主語疑問詞が文頭にあり、それ以外の疑問詞は元位置にあることになる。

- (27) a. Who died where?
b. *Where did who die?
c. Who left when?
d. *When did who leave?
e. *Why did who leave?
f. *How did who do?

(27 e, f) に関しては、(13 e ~ h) で見たように、why, howが元位置にあっても許容されないので、優位性以外の条件が作用していると思われる⁸。

多重疑問詞が目的語疑問詞と付加詞疑問詞の場合はそのどちらが優位の位置にあるのか決めがたい。

- (28) a. What did you buy where? Kuno and Takami (1993 p. 114)
b. Where did you buy what?
(29) a. What did you buy when?
b. When did you buy what?

この場合も付加詞疑問詞がwhyの場合はそれが文頭にあっても、元位置にあっても許容されない。

- (30) a. *What did you do why? Kuno and Takami (1993 pp. 110,111)
b. *Why did you buy what?⁹

しかし、疑問詞が3個の多重疑問詞疑問文だとwhyを元位置で使うことが可能となり、優位性効果が現れるようである。

- (31) a. Who bought what why? Kuno and Takami (1993 p. 121)
b. *What did who buy why?
c. *Why did who buy what?

間接疑問文でも優位性効果が作用している。

- (32) a. Mary asked who read what. Pesetsky (1984 p. 12)
b. *Mary asked what who read

whyに関しては、直接疑問文の場合と同様、元位置にあっても節頭にあっても許容されない。

- (33) a. *Tell me why who came.
b. *Tell me who came why. Kuno and Takami. (1993 p. 120)

本節のここまでの説明で1つ明らかなのは、多重疑問詞疑問文の疑問詞が主語疑問詞と目的語疑問詞である場合に、優位性効果がはっきりと現れるということである。しかし

ながら、この観察も次の例を見ればそう単純には割り切れないことがわかる。

- (34) a. Mary asked which man read which book. Pesetsky (1984 p.15)
b. Mary asked which book which man read.

疑問詞がwhich句の場合、優位性効果が消えるようである。Pesetsky (1984) はこのような疑問詞は談話状況と連結している (D-linking)、そのような連結とはかかわりなく考察できる疑問詞と異なる扱いが必要であると論じている。ここでは、日本語の「どの」疑問詞も含めてwhich疑問詞や、その他の談話状況と連結している疑問詞は考察しない¹⁰。

3. 2 日本語

日本語の疑問詞は基本的に文(節)頭位置とかかわりがなく、多重疑問詞疑問文でも、2. 2節で見たように、疑問詞は元位置にある。本節では、日本語多重疑問詞疑問文の疑問詞の置換が許容されるかどうかという観点から優位性効果のあるなしを判定できると考えて、例文を調べる。その結果、優位性効果は観察されないように思われる。

- (35) a. 誰が何を買いましたか。
b. 何を誰が買いましたか。
(36) a. 誰がどこで死にましたか。
b. どこで誰が死にましたか。
(37) a. 誰がいつ辞めましたか。
b. いつ誰が辞めましたか。

目的語と付加詞疑問詞の多重疑問文の場合も優位性現象はないようである。

- (38) a. 何をどこで買いましたか。
b. どこで何をかいましたか。
(39) a. 何をいつ買いましたか。
b. いつ何を買いましたか。

間接多重疑問文においても優位性現象はないようである。

- (40) a. 花子は、誰が何を読んだか、たずねた。
b. 花子は、何を誰が読んだか、たずねた。

以上見てきたように、日本語多重疑問詞疑問文には優位性現象が見られないようであるが、英語多重疑問詞疑問文で、why、howが他の付加詞のように使えなかったように、日本語の疑問詞「なぜ」が多重疑問詞疑問文では他の付加詞疑問詞とは違った振る舞いを見せる¹¹。

- (41) a. 太郎が何をなぜ買ったの。
b. *太郎がなぜ何を買ったの。

英語多重疑問詞疑問文では使えなかったwhyが疑問詞が3個になると使えるようになった(31 a) のと同様、日本語においても(41 b) の「太郎が」を疑問詞に変えると許容できる多重疑問詞疑問文になる。

(42) 誰がなぜ何を買ったの。

しかしこの場合も、「なぜ」は多重疑問詞疑問文の初出疑問詞にはなれない。

(43) a. *なぜ誰が何を買ったの。

b. *なぜ何を誰が買ったの。

c. 何をなぜ誰が買ったの。

d. 何を誰がなぜ買ったの。

この「なぜ」の特異性は間接多重疑問詞疑問文においても同様に観察される。

(44) a. 花子は、太郎が何をなぜ読んだか、たずねた。

b. *花子は、太郎がなぜ何を誰が読んだか、たずねた。

c. 花子は、誰がなぜ何を読んだか、たずねた。

d. *花子は、なぜ誰が何を買ったか、たずねた。

e. *花子は、なぜ何を誰が買ったか、たずねた。

f. 花子は、何をなぜ誰が買ったか、たずねた。

g. 花子は、何を誰がなぜ買ったか、たずねた。

日本語疑問詞「なぜ」が、なぜ多重疑問詞疑問文(節)の初出疑問詞になれないのか、興味深い疑問である¹²。

3. 3 ブルガリア語(B)、セルボクロアチア語(SC)

2.3節でみたように、ブルガリア語、セルボクロアチア語両語とも多重疑問詞疑問文の複数の疑問詞が文頭にある¹³。しかし、その複数疑問詞の相対語順の可能性は両言語において異なる。

(45) a. Koj kogo e vidjal? (B) Bošković (1997 pp. 3,4)

who whom is seen

'Who saw whom?'

b. *Kogo koj e vidjal?

(46) a. Koj küde udari Ivan?

who where hit Ivan

'Who hit Ivan where?'

b. *Küde koj udari Ivan?

(47) a. Ko je koga vidio? (SC)

who is whom seen

'Who saw whom?'

b. Koga je ko vidio?

(48) a. Ko je gdje udario Ivana?

who is where hit Ivan

'Who hit Ivan where?'

b. Gdje je ko udario Ivana?

単文における多重疑問詞疑問文で、ブルガリア語は主語疑問詞の優位性（文頭にあるということ）を示しているが、セルボクロアチア語では優位性効果はまったくないように見える。しかし、セルボクロアチア語でも従属節内に多重疑問詞がある場合はブルガリア語の単文多重疑問詞疑問文と同様の優位性効果が観察される。

(49) a. Ko si koga tvrdio da je istukao? (SC) Bošković (1997 pp. 5,6)

who are whom claimed that is beaten

'Who did you claim beat whom?'

b. *Koga si ko tvrdio da je istukao?

(50) a. ?Ko ste gdje tvrdili da je zaspao?

who are where claimed that is fallen-asleep

'Who did you claim fell asleep where?'

b. *Gdje ste ko tvrdili da je zaspao?

従属節内の多重疑問詞の1つが元位置にある場合は、優位の位置にないほうが元位置になければならない。

(51) a. Ko tvrdiš da koga voli?

who claim that whom loves

'Who do you claim that loves who?'

b. *Koga tvrdiš da ko voli?

セルボクロアチア語多重疑問詞疑問文は、優位性効果を示す場合と示さない場合があるという疑問詞疑問文の2重特性を有している。

3節で見たことをまとめると次のようになる。

(52) a. 英語多重疑問詞疑問文、ブルガリア語多重疑問詞疑問文、セルボクロアチア語の従属節内の多重疑問詞に関して、主語疑問詞が最も優位の位置にありそれが文（節）頭にある。

b. 日本語多重疑問詞疑問文の疑問詞は元位置にあり、優位性効果を示さない。

c. 英語疑問詞why、howは優位性効果とはかかわりなく多重疑問詞疑問文にあらわれない。

d. 日本語「なぜ」は多重疑問詞疑問文の初出疑問詞にならない。

4. まとめ

多重疑問詞疑問文の性質を言語横断的にまとめる場合、言語事実は、少なくとも次の3つの観点からの考察が必要であることを示している。1つ目は、疑問詞が文（節）頭にあるのか元位置にあるのかということ。また、すべての疑問詞が文（節）頭にあるのか、元位置にあるのかと言う観点。2つ目は、「なぜ」のような理由、方法を問う疑問詞の特異性。3つ目は、複数の疑問詞間の相対的位置関係である。それぞれの観点から、言語が取

り得る可能性を調べ、その可能性のそれぞれの観点間の組み合わせだけの言語の可能性が考えられるが、そのような言語の可能性を検証することも興味深い試みであろう。

注

- 1 「どの」に関しては3. 1節参照
- 2 whoの格変化したwhose、whomはwhoと同類と考えている。whichについては注1参照。
- 3 eは疑問詞の元位置を示す空要素である。
- 4 日・英語以外の言語には英語の対応語と訳文を記載する。
- 5 述語を修飾する要素には他動詞の目的語である名詞（句）と時間、場所、様態、理由を表す副詞（句）があるが、前者を補部、後者を付加詞と呼ぶ。
- 6 ポーズ以外の手段としては、形式名詞「の」+疑問助詞「か」+補文標識「と」を使うことなどが考えられる。
 - i) 誰が太郎がどこで何を買ったのかと尋ねましたか。いずれにせよ、元位置疑問詞を直接疑問詞と解釈することはできそうにないように思われる。
- 7 2つの疑問詞の間に助動詞要素があるのがこの言語の特徴のようである。これら3つの要素が(23)では主語の前にあることから、これらが、疑問詞1つが文頭にあり、次に助動詞がきて残りの疑問詞が元位置にあると考えるよりも、文頭にある2つの疑問詞の間に助動詞があると考えるべきであろう。
- 8 Kuno and Takami (1993) はwhy、how、「なぜ」に関してS''-Wh 仮説を提示し、この仮説で説明できない例を「仕分け手がかり(sorting key)」仮説で説明している。
- 9 Kuno and Takami (1993) は、この例の許容性を?/??と判定しているが、注でこの文を許容する母国語話者は1人もいなかったと書いているので、ここでは*の判定を与える。
- 10 Kuno and Takami (1993:p.198 note50) は、Pesetsky (1984)「談話状況との連結」の考えは代名詞の束縛変項の可能性を考慮した場合に問題があるとして、排除している。
- 11 英語howにあたる日本語疑問詞「どのように」は考察対象疑問詞ではない。注1参照。
- 12 Williams (2003:pp.156,1579) は多重疑問詞疑問文の優位位置にある疑問詞が独立変数となり、その元位置要素が元位置疑問詞を束縛するという条件で、この現象を説明している。
- 13 ブルガリア語、セルボクロアチア語の2言語について述べているが、Rudin (1988)はこの2言語以外に、ルーマニア語、ポーランド語、チェコ語についても述べている。多重疑問詞疑問文の文頭にある複数疑問詞の振る舞いによって、これら5つの言語が2グループに分けられている。1つは、ブルガリア語とルーマニア語で、もう1つは残りのセルボクロアチア語、ポーランド語、チェコ語である。ここでは、それぞれのグループを代表して、ブルガリア語と、セルボクロアチア語をとり上げている。

参考文献

- Boeckx,C. and K. K. Grohmann 2003 *Multiple Wh-Fronting* John Benjamins.
- Bošković, Z. 1997 'Superiority effects with multiple wh-fronting in Serbo-Croatian' in *Lingua* 102-1 pp. 1-20.

- Chomsky, N. 'Conditions on Transformations,' in S. R. Anderson and P. Kiparsky (eds.) *A Festschrift for Morris Halle*.
- Kuno, S. and K. Takami 1993 *Grammar and Discourse Principles* The University of Chicago Press
- Pesetsky, D. 1984 *Wh-in-situ: Movement and Unselective Binding*, circulated paper.
- Rudin, C. 1988 'On Multiple Questions and Multiple WH Fronting' in *Natural Language & Linguistic Theory* 6-4.
- Williams, E. 2003 *Representation Theory* The MIT Press.

